

私は専業主婦です。一日中子どもと居て、ストレスを感じることもあります。でも、家族の協力と理解があれば、ストレスを解消することも出来ます。子育ては、母親だけではありません。家族や周りの方の協力があって、子どもは育つと思います。

もし、家族の協力がなくて、困っているお母さんが居たら、市で協力してあげてください。

子どもが軽い病気、回復期のときに、預かる場所、医療、保育が受けられる場所が大至急欲しい。できれば、いつもの保育園でしてもらおうと助かる。

子育てについての講座はとておためになるので、もっとたくさん増えてくれれば嬉しいです。

また、市で開催する催しにも、子連れで楽しめるものがあればいいなと思います。子育てでストレス解消、気分転換がなかなかできないのが、現状です。

一時保育で、何度か保育園にお世話になる機会があり、つねに家で、祖父母や近所の人たちとの交流しなかった子どもが、同じ位のお友達がいる場所に居ると、小さいながらも集団生活で学ぶものがあつたらしく、家では体験できない事したり、見たり、聞いたりする事の大切さが感じられました。

一時保育という、何か用事や、事情がない限り利用出来ないイメージがあるので、時間指定があつたとしても、保育園開放で利用できれば良いと感じています。

ニーズ調査に寄せられた

MESSAGE 声

どんなことを感じているの？
MAMA & PAPA



2人の子どもを持つ母親の意見ですが、子どもが風邪をひいたり、予防接種や子どもの検診など、何かと病院へ行く事が多く、その為2人の子どもを連れて行く事になるので、負担となります。そういった時に、1人の子どもを預けられる所があれば、親として助かると思います。

育児休業制度や他にもいろいろ制度がありますが、利用しようと思っても、職場の理解がない為、利用できません。

もっと子育てについて理解のある環境になってほしい。子どもがいるというだけで、やっかいな目で見られて、仕事しにくい。

親子共々に、安心できるような、そして出かけた時に、子どもも楽しめるような場所がもっと増えるといいです。

お父さんと赤ちゃんと一緒に体を使って遊ぶのを、教えてくれるイベントがあつたら、

ぜひ参加したい。パパ友達は、ママ友達と違いなかなか出来ない。パパ同士の交流が深まれば、家族ぐるみの付き合いがあつた方が、パパも育児が楽しくなると思います。

すべての子育て家庭が、笑顔で子育てできるように

このように、子育てに関するニーズは、病後児保育、親子同士の交流の場、一時保育など様々なものがあり、子育てサービスの充実を望む声は高まってきています。在宅で育児を行っている家庭を含め、すべての子育て家庭が必要とするサービスを、子どもの年齢や成長に応じて利用できるよう整備が必要です。

そこで次ページでは、山形市が実施している子育てサービスの一部を紹介します。

特集

子育てで応援します

～子育てって、誰がしますか？～

合計特殊出生率が1.25%という予想もしていなかった数字を出し、ますます少子化は大きな社会問題として取り上げられています。今回は山形市が実施した次世代育成支援ニーズ調査を中心に、子育て家庭の現状と今何が必要かを考えます。

6歳未満の子どもがいる世帯の動向

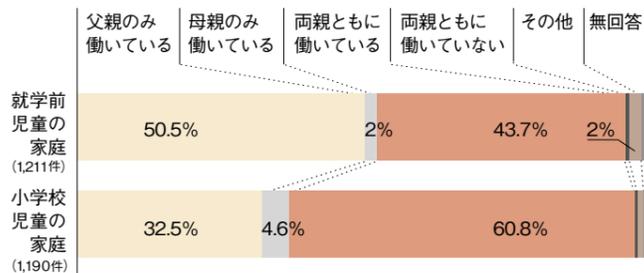
	全国		山形県		山形市	
	世帯数	世帯率	世帯数	世帯率	世帯数	世帯率
核家族世帯	4,209,254	78.6%	22,671	44.5%	7,200	65.4%
三世帯世帯	738,105	13.8%	18,510	36.4%	2,671	24.3%
それ以外の世帯	409,015	7.6%	9,709	19.1%	1,136	10.3%
計	5,356,374	100.0%	50,890	100.0%	11,007	100.0%

(平成12年国勢調査)

平成12年の国勢調査によると、山形県は全国平均に比べ三世帯世帯率が高いことがわかります。しかし、山形市の子どもがいる世帯だけを見ると、三世帯世帯率は全国平均より高いものの、県の世帯率より12.1%低く、逆に核家族世帯の世帯率は、県より20.9%高いことから、核家族化が進んでいることがわかります。

世帯の状況

両親の就労形態について



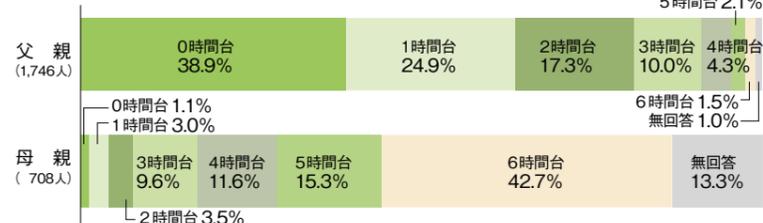
(平成16年3月 / 山形市次世代育成支援ニーズ調査)

さらに、山形市が実施した次世代育成支援ニーズ調査によると両親が共に働いている家庭は就学前児童の家庭では約40%ですが、子どもが小学校になると約60%に増えるという結果が出ています。また、厚生労働省の全国的な調査によると、未就学児の子どもを持つ父親の育児時間は0時間台の人が40%近く、同じく母親は6時間以上の人40%以上となっています。

両親の就労と育児の状況

未就学児の子どもを持つ働いている父親・母親が子どもと過ごす時間(平日)

●父親平均:1時間30分 母親平均:6時間41分



(平成15年3月 / 厚生労働省「子育て支援策等に関する調査研究」)

この結果、母親に育児の負担がかかっていることがわかります。父親・母親ともに、仕事と家庭のバランスをとることが大事です。そのためには、職場の理解や子育てサービスの充実などが大切になってきます。そこで次に、山形市の次世代育成支援ニーズ調査に寄せられた声を紹介し、現在子育てをしている人が、何を必要としているのかを見てみます。